

学校評価シート（自己評価）

草加氷川幼稚園
令和4年度分

1、園の教育目標

生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を友達や教師と一緒に楽しく充実した幼稚園生活を送る中で養い、自己を形成していくことを目指す。そのために、子どもとの信頼関係を十分に築くこと、よりよい教育環境を構成することに努め取り組む。

本園の教育目標として、次の4つの項目を掲げる。

- 1、明るくのびのびとした子
- 2、やさしい豊かな心の子
- 3、考える子
- 4、規律正しい子

2、具体的な目標や計画

各項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自ら客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組む、コロナ禍の中でも知恵を出し工夫をし、子どもたちの生活の場を維持することを重点項目とする。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
I 保育の計画性	A(2.39)	子どもの実態に即した内容にするために話し合いを重ね、教育計画に加筆、訂正を行いながら進め、努めることができた。コロナ対策に、余裕を持ち取り組めるようになってきたため、より充実できるよう計画、検討することが出来た。
II 保育の在り方	A(2.64)	学年、クラスにより異なってくるものの、各自日々の記録や連携を意識し取り組み、主任を中心に学年内での差異が生じないように努めている。
III 教師の姿勢	A(2.66)	幼稚園教諭として、子どもたちにとって教員が大きな環境であるということを意識し関わるが出来ていた。
IV 保護者対応	A(2.77)	昨年度と比較すると、コロナ禍ではあったものの、保護者と関わる機会が戻ってきている。便りの発信も含めて、丁寧にこまめに接することが出来た。これらを通して保護者との信頼関係の構築に努めることができた。
V 地域等関わり	B(1.95)	学期により意識の違いが表れた。地域や小学校との交流機会も増えてはきたものの、結果に表れる程の関わりにはいたっていない。積極的に求めていく意識が必要である。
VI 研修・研究	A(2.15)	コロナ禍の影響から、研修会数が減り結果として表れている。オンライン研修や僅かな機会の際は、各自積極的に参加をしていた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A(2.42)	コロナ禍ではあったが、昨年度に比べ余裕も生まれ、変化に柔軟に対応し、各自適切に考え、自己点検・自己評価に取り組んでいた。業務も多く忙しい中ではあるが、その中でも各自が質を高めようと努める姿も見られた。

結果 (※) について

A(2.1～3)	十分達成されている
B(1.1～2)	達成されている
C(0.1～1)	取り組まれているが成果が十分ではない

5、今後取り組むべき課題

課 題	
情報公開の方法	現在、園だより・保育参観日・園行事等を通して保護者へ幼稚園の情報を提供しているが、情報公開として一般の方が利用しやすいホームページ等の活用も積極的に行い情報発信について検討していく。紙媒体の良さもある為、場面に応じ検討し方法を考えていく。
自己点検、自己評価	各教職員に対し、基本の項目を点検課題として挙げ具体的に自己評価項目に加えていく。 各教職員においては向上心を持ち自己研鑽に取り組むようにしていく。
教育計画の編成	計画作成のために既存の教育計画に訂正、加筆を加え、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな計画編成に取り組んでいく。 幼児教育における、ICTの活用についても子どもの実態を踏まえ推進、検討し生かしていくよう取り組んでいく。
未就園児事業の拡充	満3歳児入園希望者が増加している。このことに対応するため、クラス数を増やし、一定の受け入れを行うための人員、環境整備に取り組んでいく。

学校評価シート（学校関係者評価）

草加氷川幼稚園 関係者評価評議員会

日 時 令和5年5月25日（木）

11:00～11:30

出席者 評価委員（保護者・父母の会会長・副会長）2名

○自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・このような社会状況の中で、たくさんの葛藤があるのだらうと思います。その中でも、変化を恐れず、新たな取り組み（卒園遠足、給食等）を試みる姿勢に感謝しています。
- ・コロナも、長期化しているためか、先生方にも余裕が生まれたように感じます。制限の多い昨年に比べ多くの変化を感じられました。先生方の指導徹底のお陰です。

○評価結果の内容は適切であったか

- ・適切である。

○今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・子どもたちは明るく、コロナ禍を感じさせることなく充実した保育を受けている。引き続き維持してほしい。
- ・コロナ禍でも、対策を講じ、様々な行事を実施していたので、子どもたちは充実した日々を送ることができました。今後もこのような取り組みを継続させてほしい。
- ・コロナ禍前に行われていた、給食試食会など保護者にも機会を設けていただけるとよい。
- ・今後も子どもたちの様子を、伝えること（ホームページ・ブログ等）に努めてほしい。

○今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・ポイントが低い項目で、各自、取り組もうとする意識の変化に期待する内容もある。
- ・評価結果から、実際現場にどのように取り込んでいくか検討を重ねる必要がある。
- ・満3歳児入園希望保護者が増加していることに対応するため、人員などの整備が必要である。
- ・ICTの活用について、子どもの実態を踏まえ、推進・検討し生かしていくよう取り組みが必要である。